

2025 年度 神戸市外国語大学
帰国子女・外国人留学生特別選抜 入学試験問題【小論文】

次の文章は、市橋伯一著『増えるものたちの進化生物学』の一部である。この文章を読んで、設問に答えなさい。

不老不死が実現する人類の未来

(中略)

原理的には不老不死は可能だと思います。究極的には、どんなに肉体が老化したとしても別の体と取り換えればよいのです。そのために必要な技術は、人工的に人間の体を作る技術と、ある人の脳の神経細胞の接続状態を新しいまっさらな脳に移植する技術です。いずれも人間が本気で望めば、不可能な技術ではないと思います。恐ろしい話だと思われるかもしれませんが、私たち人間は、自分が死にたくないのみならず、自分の大切な人には絶対死んでほしくないと思っています。そのやさしい気持ちがある以上、私たちは必ず不老不死へと近づいていくでしょう。

結局のところ、私たちは自分も他人も誰も死なない社会へと向かっていきます。これは少産少死の戦略をとる生物としては当然のことです。私たちは大きなコストをかけて育てられ、他人との協力で成り立つ社会に暮らしているので、自分の命も他人の命も大事です。できるだけ長く、できれば永遠に生存することを望むのは、自然なことかと思います。もちろん、たまには死んでほしい人もいるでしょうが、公平性を重んじる心がそれにブレーキをかけるでしょう。

こうして実現するのは誰も死なない悲劇のない平穏な世界です。一方で出生率は極端に下がるでしょう。なにしろ事故でもない限り誰も死なないので、人が一人生まれると維持するためのコストが永続的にかかるようになってしまいます。人を増やすことには極めて慎重になるはずですが、赤ん坊や子どものいない社会になってしまうかもしれません。

こんな未来はあまり楽しくないような気がします。しかし、おそらく私たちには選択肢がありません。望む、望まないにかかわらず、私たちが死にたくなく、死なせたくない以上、未来はこの方向にむかっていくのは避けようがないものと思われます。

ただし、そこまでたどり着けない可能性はかなりあります。不老不死を達成する前に、長生きのコストが高くなりすぎて経済的に寿命が制限される（つまり金持ちのみ長寿医療を受けられる）、あるいは政治的に制限される（法律で寿命が決まる）ことになるかもしれません。いずれもあまり愉快的な未来ではないように思われるかもしれませんが、それでも今の社会のように、ただ運が悪いというだけで子供や若い人が病気で死ぬことがある社会よりも、平等であるという点でましな社会だと思います。

私たちは幸せになれるのか

上で書いたような不老不死の社会はあまり幸せなように思えません。不幸は少なく平等かもしれませんが、幸福もない退屈な社会のように思えます。結局私たちは幸せになれるのでしょうか。ここで少し、生物にとっての幸せとは何か考えてみたいと思います。

一般的には、幸せになることが人生の目的のひとつのようになっているかと思います。ハッピーエン

ドのおとぎ話は「末永く幸せに暮らしました」と結ばれます。幸せになれば人生はゴールだという認識があるようです。ただ、私には、このような考え方は幸せを過大評価しているようにも思えます。幸福感の実態とは、煎じ詰めると「脳内での神経伝達物質の分泌と、特定のニューロンの発火」です。この発火がおこると人間の脳は幸福感を得るようにできています。

人間の脳はこの幸福感を、子孫を残すことに対する成功報酬として用いています。つまり、おいしいものを食べて栄養状態がよくなったり、ゆっくり休んで健康状態がよくなったり、伴侶を見つけて子孫を残す確率が高まった場合に成功報酬として幸福感が与えられます。そうして人間は（おそらく他の動物も）、この幸福感を得るために、もっと子孫を残す行為にいそしむというしくみになっています。つまり、幸せとは目の前にぶら下げられたニンジンです。

また、幸せは決して長続きしないものでもあります。それは成功報酬なので当然です。生物としては一度の繁殖成功で満足するよりも、二度三度と繁殖を成功させた方が子孫を増やせます。したがって、ひとたび幸せを感じたとしても、すぐにその状況に慣れてしまい、そして次の幸せ（もっと生存率を高めたり、別の個体とも繁殖する）を追い求めたほうが子孫をたくさん残せることになります。

ようするに、生物が増えるためのしくみとして幸福感を使っている以上、末永く幸せになることはあり得ません。もしかすると、過去に末永い幸せを獲得した生物はいたかもしれませんが、そういう生物は短期的な幸せしか得られない生物との競争に負けて絶滅してしまったことなのでしょう。私たちは幸せになりたくて幸せを追い求めながらも、手に入れた幸せに決して満足することなく、次から次へと別の幸せを追い求める生物だったからこそ、現在まで生きのびられているのだと思います。

＊出題に際して、表記を変更した箇所がある。

設問 1 筆者が考える「不老不死が実現する人類の未来」について、300 字以内で説明しなさい。

設問 2 筆者の考える「幸せ」を踏まえ、あなたが考える生物としての幸せについて、具体例を挙げながら 500 字以内で述べなさい。